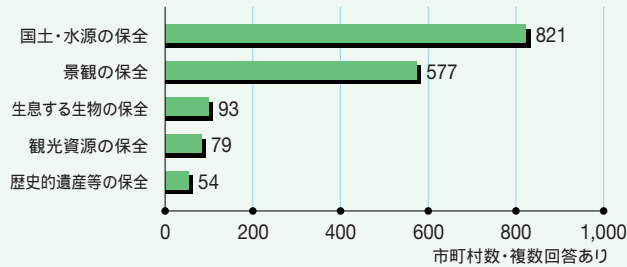


5 棚田の役割と保全活動

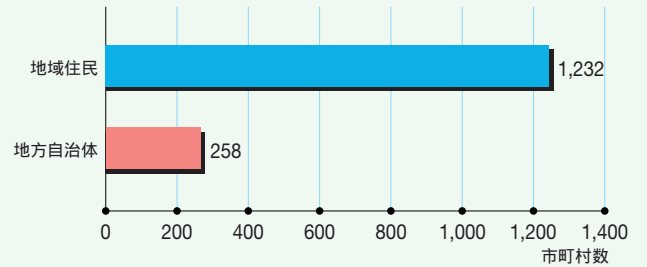
棚田は農産物の生産だけでなく、
地滑り防止や景観の保全など様々な役割を持っています。

日本の棚田は全国に約22万haあり、全国の耕地面積の約4%を占めています。
棚田は農業生産だけでなく、洪水調節・地滑り防止・地下水かん養・景観保全などの多様な機能を備えています。
特に、新潟県南部の地滑り防止地域には、多くの棚田が集中し、地滑りの防止に役立っています。
多くの地域住民が積極的に棚田の保全を行っています。

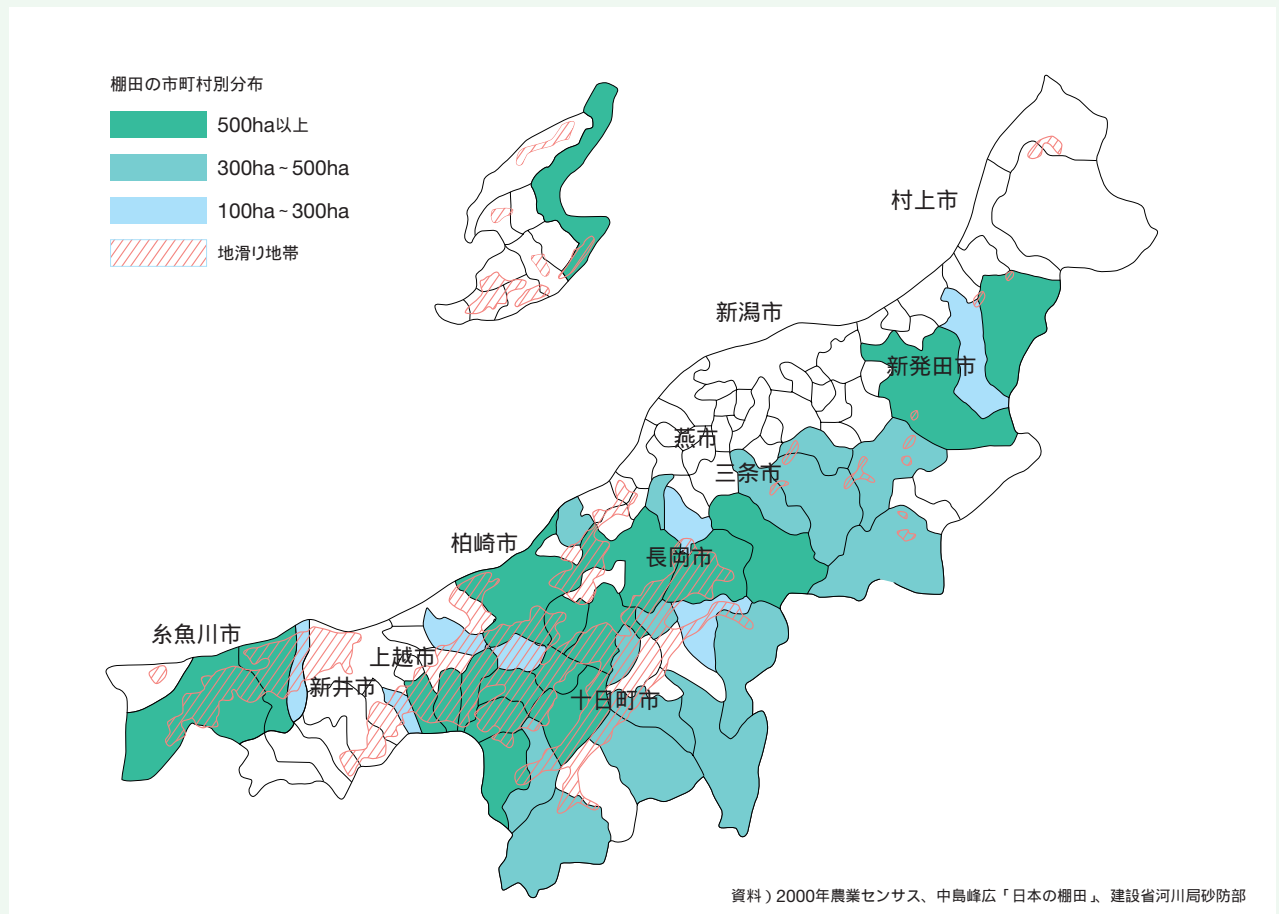
棚田の保全目的



棚田の保全主体



新潟県の棚田の分布と地滑り地帯分布





「日本の棚田百選」に選ばれた「白米の千枚田しらよね（石川県輪島市）は、1.2ha余りの土地に2,000枚余の田が描く幾何学模様が、海岸線に砕ける白い波頭と調和して、美しい景観をつくり、年間約50万人の観光客が訪れています。

平成5年、県、市並びに輪島市内の経済団体が共同して「千枚田景勝保存基金」を設立し、白米村の耕作者によって構成される「千枚田景勝保存会」の活動を支援しています。また、地元小中高生を含め年間延べ約800人の県内外のボランティアが耕作支援を行っています。

白米の千枚田(千枚田ポケットパークより)



千枚田ポケットパーク

展望台：日本海と千枚田を一望することができます。

観光案内所：千枚田での田植えや稲刈り体験の申し込みを受け付けています。

特産物販売：地域の特産物である岩ノリやアワビなどの海鮮物などを販売しています。

千枚田保存活動



ボランティアによる稲刈り

千枚田景勝保存基金

目的：千枚田の耕作を継続し、奥能登に伝わる農村生活と景勝を守り、伝えます。

参加団体：石川県・輪島市・商工会議所・観光協会・朝市組合・商店連盟・漁協・農協・建設業協会 等

基本財産：8,000万円

イベント：平成11年に「1999地球環境米米フォーラムin輪島」を開催、40か国を超える駐日大使や国連関係者とその家族を輪島に招き、田植えや稲刈りを通じ、「米・稲作・農作業」が「食糧問題・地球環境の保全・国際協力・伝統文化」に関係することを国内外に大きくアピールしました。

6 美しい田園空間の継承(田園空間博物館)

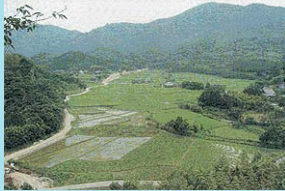
田園空間整備事業を核に、農村地域の伝統的な美しい景観を国民共有の財産として保全・継承する取り組みが進められています。

農村の歴史的景観を「田園空間博物館」として保全・継承する取り組みが、全国49地区で田園空間整備事業として行われています。

田園空間博物館の分布と代表的な地区

田園空間博物館

フランスで1960年代に生まれたエコミュージアム活動をヒントに、農村部を人と自然が織りなす野外博物館と見立て、自然景観、水路、建物等のほか、地域の産業や生活までも含む地域資源を現地でそのまま保全・管理する地域づくり活動です。



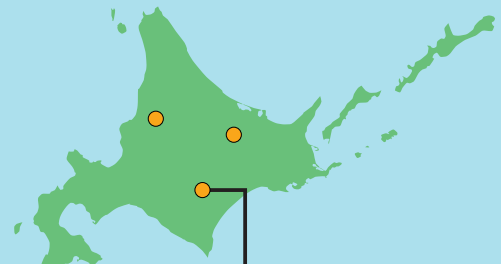
田染荘に代表される中世荘園の田園景観を生産基盤整備を通じ保全・紹介。

大分・西高地区



散居村景観を構成する屋敷林等を保全・活用するネットワーク活動を支援。

富山・となみ野地区



北海道・とち大平原地区

耕地防風林に代表される自然を克服してきた農業の歴史と暮らしを紹介。



栃木・那須野ヶ原西部地区

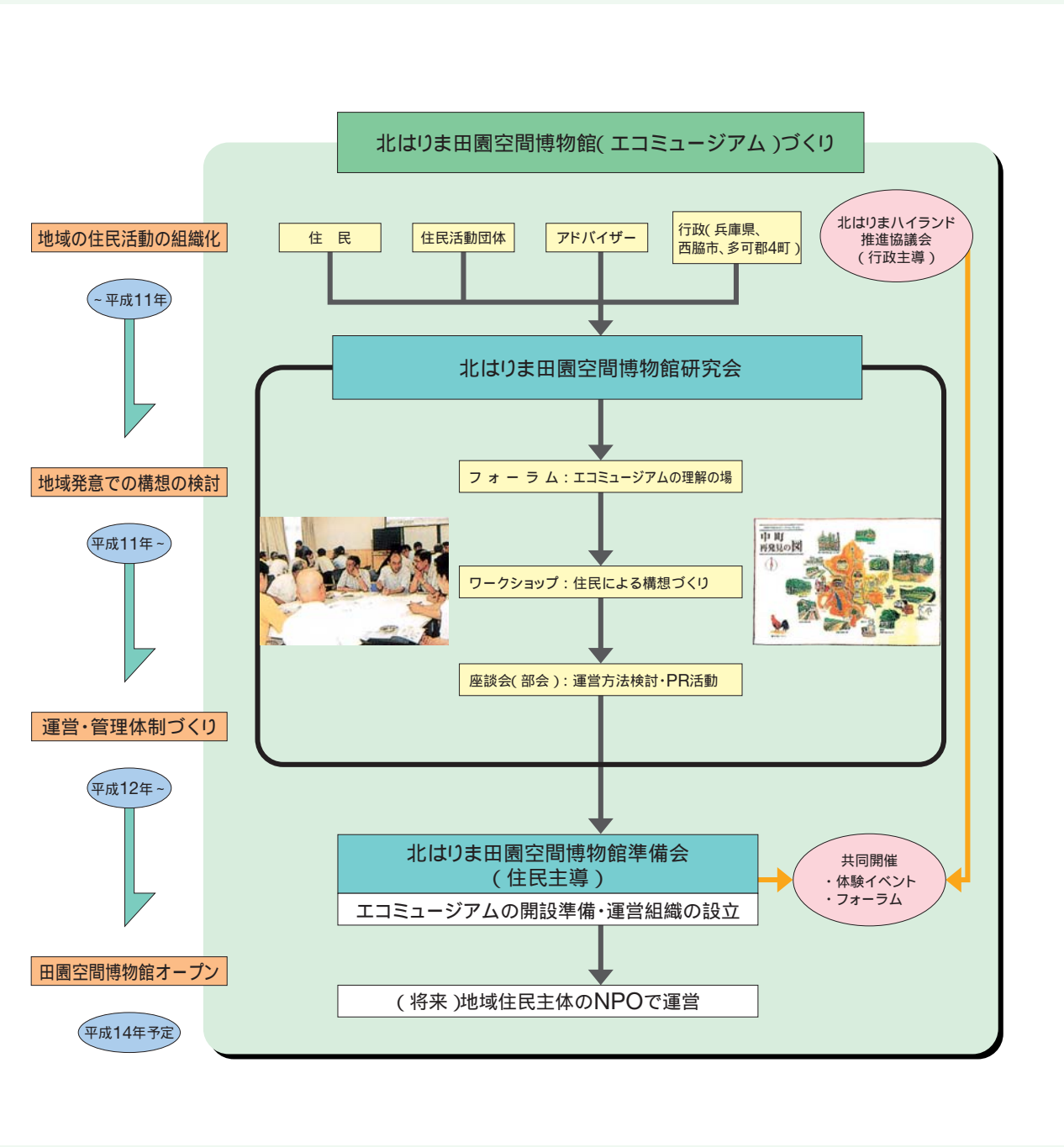
那須開拓の歴史的遺産を保全し、開拓の歴史の学習・体験活動を推進。





兵庫県北はりま地区では、住民主導により、田園空間博物館の研究会が、博物館整備の準備会に移行し、運営・管理体制づくりを行っています。

兵庫県北はりま地区(西脇市、多可郡4町)における住民主体のエコミュージアムづくりの例



地域を造る